

4 中学校各教科の調査結果の概要及び今後の指導について

(1) 国 語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—	
話・聞	：話す能力・聞く能力
書	：書く能力
読	：読む能力
言語	：言語についての知識・理解・技能

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	設定通過率(%)	通過率(%)
A 話すこと・聞くこと(1) 1年ウ 2年イ	1	一 話の内容を聞き取る。	話・聞	90.0	97.9
A 話すこと・聞くこと(1) 1年ア 2年イ		二 話の要点を正確に聞き取る。	話・聞	80.0	71.6
A 話すこと・聞くこと(1) 1年ア 2年ウ		三 話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取る。	話・聞	80.0	91.9
C 読むこと(1) 1年ア	2	① 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。	読	70.0	76.7
		② 基本的な古語の意味をとらえる。	読	85.0	53.5
言語事項(2) 1年ア、イ 2年ア、イ	3	一 ア 文脈の中で漢字〔練って(ねって)〕を正しく読む。	言語	90.0	81.2
		イ 文脈の中で漢字〔きび(厳)し〕を正しく使う。	言語	70.0	74.9
		ウ 文脈の中で漢字〔しんび(神秘)〕を正しく使う。	言語	65.0	62.9
言語事項(1) 2年イ		二 慣用語の意味や用法に注意して、語句を正しく使う。	言語	60.0	80.3
C 読むこと(1) 1年イ		三 文章の展開に即して内容をとりえ、必要に応じて要約する。	読	40.0	30.3
言語事項(1) 2年オ		四 文の中の文の成分の順序や照応、文の組立てなどについて考える。	言語	60.0	33.5
C 読むこと(1) 1年イ		五 文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解する。	言語	55.0	71.0
C 読むこと(1) 1年ア		六 文章の展開に即して内容をとりえ、語句の意味を理解する。	読	40.0	24.9
C 読むこと(1) 1年ア		七 文章の展開に即して内容をとりえ、語句の意味を理解する。	読	70.0	82.7
C 読むこと(1) 1年ア	八 文章の展開に即して内容をとりえ、語句の意味を理解する。	読	55.0	27.8	
C 読むこと(1) 1年エ	九 文章の展開を確かめながら主題を考えたり、要旨をとらえたりする。	読	65.0	74.6	
言語事項(2) 1年ア、イ 2年ア、イ	4	一 ア 文脈の中で漢字〔定義(ていぎ)〕を正しく読む。	言語	70.0	95.6
		イ 文脈の中で漢字〔かいほう(解放)〕を正しく使う。	言語	50.0	58.3
		ウ 文脈の中で漢字〔一見(いっけん)〕を正しく読む。	言語	60.0	95.2
C 読むこと(1) 1年ア		二 文脈の中における語句の意味を正確にとらえる。	読	60.0	38.4
C 読むこと(1) 1年ウ		三 文章の中における段落の役割を正確にとらえる。	読	60.0	56.8
C 読むこと(1) 1年イ		四 文章の展開に即して内容を正確にとらえる。	読	50.0	66.0
C 読むこと(1) 1年ウ		五 文章の構成や展開を正確にとらえる。	読	70.0	59.9
C 読むこと(1) 1年ア		六 文脈の中における語句の意味を正確にとらえる。	読	65.0	78.9
C 読むこと(1) 1年ウ		七 文章の構成や展開を的確にとらえる。	読	70.0	62.7
言語事項(1) 1年イ 2年イ	八 文脈の中で語句を正しく使う。	言語	50.0	39.4	
C 読むこと(1) 1年エ	九 文章の展開に即して内容を理解し、要旨をとらえる。	読	60.0	55.9	
B 書くこと(2) 1年イ 2年イ	5	自分の考えや気持ちを明確にして書く。	書	65.0	74.3

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内					
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡			
1	一	話の概要	90.0	98.1	98.1	98.4	97.8	97.3	98.1	98.0	
	二	話の要点	80.0	72.2	72.2	72.6	69.3	67.0	72.0	70.0	
	三	話の詳細	80.0	92.1	92.1	90.9	90.7	90.9	91.6	90.0	
2	①	「ゐて」の現代仮名遣い	70.0	85.9	85.9	86.0	85.0	86.8	87.9	82.0	
	②	「いと」の意味	85.0	53.9	52.8	69.9	62.9	57.2	67.9	65.2	
3	一	ア	「練って」の読み方	90.0	83.3	83.1	85.5	84.5	85.5	83.2	84.3
		イ	「キビ(し)」の書き方	70.0	72.2	71.4	82.8	72.8	72.8	79.4	69.4
		ウ	「シンピ」の書き方	65.0	71.6	71.2	77.4	58.5	58.7	58.6	58.3
	二	慣用句の意味や用法	60.0	82.8	83.1	79.0	77.1	75.7	79.8	77.0	
	三	文章の展開に則した内容の把握	40.0	30.0	29.7	34.9	28.6	23.6	38.0	28.1	
	四	文の成分の順序や照応、文の組立	60.0	39.7	39.7	39.2	26.2	26.8	31.5	23.0	
	五	文脈の中における語句の意味	55.0	73.1	73.2	71.0	75.1	75.4	78.5	73.3	
	六	文章の展開に即した語句の意味	40.0	30.9	31.3	25.3	19.0	20.5	18.1	18.2	
	七	文章の展開に即した語句の意味	70.0	84.2	83.8	89.8	82.7	83.5	79.4	83.5	
	八	文章の展開に即した語句の意味	55.0	29.0	28.7	33.3	25.0	27.5	27.1	21.8	
九	主題や要旨の把握	65.0	79.0	78.9	80.6	70.3	70.5	68.8	70.9		
4	一	ア	「定義(ていぎ)」の読み方	70.0	96.1	96.1	96.2	94.1	93.7	97.2	92.8
		イ	「かいほう(解放)」の書き方	50.0	58.8	58.3	67.2	54.4	56.5	58.6	50.4
		ウ	「一見(いつけん)」の読み方	60.0	95.4	95.2	97.8	95.9	96.0	97.8	94.9
	二	文脈における語句の意味	60.0	44.8	44.7	46.2	31.8	32.1	37.1	28.9	
	三	文章における段落の役割	60.0	61.6	61.6	61.3	53.8	52.7	58.3	52.4	
	四	文章の展開に即した内容把握	50.0	68.7	68.8	66.7	62.4	58.3	69.5	62.4	
	五	文章の構成や展開の把握	70.0	63.9	64.1	61.3	58.4	61.1	57.0	56.9	
	六	文脈における語句の意味	65.0	82.6	82.3	86.0	77.6	76.8	79.4	77.3	
	七	文章の構成や展開の把握	70.0	64.2	64.0	66.1	58.4	58.3	56.7	59.4	
八	文脈における語句の正しい使用	50.0	38.0	37.9	40.3	28.9	27.0	29.0	30.5		
九	要旨の把握	60.0	58.5	58.9	52.7	55.4	54.7	57.9	54.7		
5		条件に合った文章表現	65.0	78.2	78.2	78.5	69.3	65.6	78.2	68.0	
教 科 全 体			64.5	67.5	67.3	69.2	63.1	62.6	65.6	62.2	

(単位：%)

中 南 管 内					上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内			県全体
弘前市	黒石市	平川市	中・南郡		十和田市	三沢市	上北郡		むつ市	下北郡		八戸市	三戸郡		
97.7	97.7	96.3	99.7	97.2	98.1	98.4	98.9	97.6	95.8	95.2	97.5	98.5	98.5	98.4	97.9
70.4	72.8	67.7	69.0	63.9	70.1	68.3	71.8	70.7	68.6	69.6	66.0	74.9	74.5	76.3	71.6
91.1	91.0	91.6	93.5	88.4	92.2	92.1	91.5	92.6	89.9	91.0	86.7	93.3	93.5	92.7	91.9
73.9	80.1	64.3	69.7	60.2	74.4	77.1	78.5	70.4	63.1	63.8	61.1	71.8	72.8	68.2	76.7
48.5	52.2	42.7	47.4	38.5	53.0	60.1	53.9	47.1	48.4	50.9	41.4	54.2	57.7	42.4	53.5
85.3	87.1	78.7	85.8	83.8	75.6	76.9	79.4	72.7	82.6	82.8	81.8	78.0	78.2	77.2	81.2
73.8	71.8	79.0	76.5	74.3	74.2	74.0	82.6	70.5	78.8	81.1	71.9	78.6	79.2	76.7	74.9
55.1	61.7	43.5	44.9	47.4	60.9	62.4	65.5	57.5	65.2	69.2	53.7	64.0	65.4	59.1	62.9
80.3	80.1	79.3	81.7	80.7	80.2	81.2	80.3	79.2	77.4	77.9	75.9	80.4	80.8	79.1	80.3
32.4	33.5	19.6	39.0	34.3	28.2	26.9	39.4	24.0	18.8	21.9	9.9	33.8	33.8	33.9	30.3
28.7	27.5	32.9	32.5	26.0	34.1	37.8	34.2	31.1	24.4	27.2	16.3	37.0	38.4	32.2	33.5
72.2	74.3	66.3	73.1	67.6	71.2	76.2	71.1	67.3	69.4	71.1	64.5	66.8	66.9	66.3	71.0
23.5	26.5	13.5	22.3	21.4	22.4	27.6	24.8	17.3	19.3	20.4	16.3	26.6	27.5	23.5	24.9
82.7	82.8	80.7	81.4	85.9	82.9	82.7	82.3	83.2	81.4	81.3	81.8	81.5	81.3	82.3	82.7
27.7	28.7	30.0	23.8	24.5	27.1	29.0	27.1	25.6	27.3	28.4	24.1	28.9	29.1	28.0	27.8
74.0	75.0	71.8	73.4	72.8	75.3	78.8	77.0	71.9	74.1	76.2	68.0	72.8	73.2	71.3	74.6
95.9	96.3	94.8	95.4	95.4	95.9	95.8	96.2	95.8	94.6	94.6	94.6	95.6	96.0	94.5	95.6
58.3	62.7	50.4	51.1	53.5	56.2	58.8	56.4	54.1	57.9	59.9	52.2	61.1	60.5	63.0	58.3
96.0	96.5	94.8	96.0	95.4	94.7	95.4	93.7	94.5	95.4	95.6	95.1	94.2	94.4	93.7	95.2
36.7	38.8	32.3	37.5	30.9	38.0	42.4	39.8	33.7	29.3	30.3	26.6	39.7	40.8	36.2	38.4
56.4	56.8	51.0	58.2	58.7	56.1	59.5	56.4	53.3	52.8	53.1	52.2	55.5	57.0	50.8	56.8
68.3	69.1	60.2	74.0	67.6	63.8	64.8	69.1	60.5	60.1	61.4	56.2	66.5	66.7	65.6	66.0
59.6	62.2	53.0	57.3	57.2	60.7	63.8	61.5	57.9	57.6	58.3	55.7	57.3	56.7	59.3	59.9
77.3	78.9	71.5	77.1	76.5	78.7	84.1	80.8	73.7	73.1	75.2	67.0	78.9	79.8	75.7	78.9
62.6	64.9	57.3	59.8	59.9	62.9	67.3	64.2	58.9	58.4	58.8	57.1	64.4	65.0	62.3	62.7
43.6	48.6	39.5	45.8	22.9	40.6	42.2	47.9	35.9	23.6	21.1	31.0	45.3	47.7	37.3	39.4
53.5	55.6	50.1	50.8	49.8	55.4	62.0	53.7	51.1	55.0	57.1	48.8	56.3	56.6	55.3	55.9
68.9	70.6	57.1	71.5	71.6	76.5	75.2	83.2	74.3	64.6	66.7	58.6	78.4	79.1	75.7	74.3
64.1	65.8	59.6	63.9	60.9	64.3	66.5	66.5	61.5	61.0	62.1	57.6	65.5	66.1	63.5	64.9

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(11問)	通過率の低かった 問題(10問)	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
話すこと・ 聞くこと	3	1三	1二	87.2	83.3
書くこと	1	5		74.3	65.0
読むこと	14	3七、3九、 4四、4六	2②、3三、 3六、3八、 4二、4五	56.4	61.4
言語事項	10	3二、3四、 4一ア、4一イ、 4一ウ	3一ア、3四、 4八	69.2	63.0

国語科の教科全体の県の平均通過率(=64.9%)と各内容・領域別の通過率とを比較すると、通過率の高かったのは、「話すこと・聞くこと」(+22.2%)、「書くこと」(+9.4%)である。また同程度と判断できる内容・領域は「言語事項」(+4.3)である。さらに、通過率が低かったのは、「読むこと」(-8.5)である。

設定通過率と各内容・領域別の通過率を比較すると、これを上回ったのは、「書くこと」(+9.3)と「言語事項」(+6.2)である。また、同程度と判断できる内容・領域は「話すこと・聞くこと」(+3.8)と「読むこと」(-5.0)である。

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(11問)	通過率の低かった 問題(10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
話す能力・ 聞く能力	3	1三	1二	87.2	83.3
書く能力	1	5		74.3	65.0
読む能力	14	3七、3九、 4四、4六	2②、3三、 3六、3八、 4二、4五	56.4	61.4
言語につい ての知識・ 理解・技能	10	3二、3四、 4一ア、4一イ、 4一ウ	3一ア、3四、 4八	69.2	63.0

国語科は教科の特性から考えて、上記「ウ 内容・領域別結果の概要」と同じになってしまうが、「能力」や「知識・理解・技能」という評価観点で本項目を記述することとする。

国語科の教科全体の県の平均通過率(=64.9%)と観点別の結果を比較すると、通過率の高かったのは、「話す能力・聞く能力」(+22.2%)、「書く能力」(+9.4%)である。また同程度と判断できる評価の観点は「言語についての知識・理解・技能」(+4.3)である。さらに、通過率が低かったのは、「読む能力」(-8.5)である。

各観点の設定通過率との比較で見ると、これを上回ったのは、「書く能力」(+9.3)と「言語についての知識・理解・技能」(+6.2)である。また、同程度だと判断できる評価の観点は「話す能力・聞く能力」(+3.8)と「読むこと」(-5.0)である。

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率(%)	主な誤答(無答を含む)例 (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)
3	30.3	40.0	無答(19.0)、「～つちをもむこと」(5.0)、「父親にできないものをつくる」(4.5)、「ろくろを自由にひける」(3.0)
3	33.5	60.0	「今に自分が」「自分がするのだと」など連文節(15.5)、「心に」(9.0)、「いつも」(6.0)、「自分が」(2.0)
3	24.9	40.0	「性質がある」(21.0)、無答(17.5)、「自分を出す」(12.0)、「なごやかさ」(6.0)
3	27.8	55.0	「イ夢中になる」(43.0)、「ア荒れる」(25.5)
4	38.4	60.0	「今ちまたに」や「本当にすべ」など、文の途中を書き抜いた答え(17.5)、「バリアフリ」(14.0)
4	39.4	50.0	「出費」や「増加」など、問題とは関連の薄い熟語(47.0)、無答(20.0)

● 3三について

誤答の原因として、無答や文意のまとまらない解答（「焼き物そのものを鑑賞できるのが、本当の値打ちのあるもの」など）が多いことから、本文中からそのまま書き抜こうとしたこと、字数指定に合わせて内容をまとめられなかったこと等が考えられる。

● 3四について

誤答の原因として、「自分が」が多いことから、述語との対応関係をつかめなかったこと、文の構造をとらえられなかったこと等が考えられる。また、連文節での抜き出しも多いことから文節や文の成分についての理解が定着していなかったことも考えられる。

● 3六について

誤答の原因として、無答や傍線部近接の解答が多いことから、正答「自分の生地」の意味を推察しきれなかったこと、指示語の内容を答えようとしたこと等が考えられる。

● 3八について

誤答の原因として、「イ夢中になる」を選択したものが多いことから、文中での「はやる気持ち」のイメージはとらえられたが「はやる」という語の意味を文章展開に即して理解できていなかったことが考えられる。

● 4二について

誤答の原因として、「今ちまたに」「本当にすべ」など、文の途中を書き抜いていることから、「一文で答える」という問題の押さえが足りなかったことが考えられる。また、「バリアフリー」だけに注目し、「ユニバーサルデザイン」を含んでいる問題であることに意識が向かなかったためと考えられる。

● 4八について

誤答の原因として、問題とは関連の薄い熟語を答えた割合が半数近く（47.0%）をしめたこと、また、無答も多い（20.0%）ことから、日常における使用頻度の少なさ、語彙力不足が考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別にみた課題としては、昨年度同様、「読むこと」と「言語事項」に関する指導の充実が挙げられる。

今後の学習指導においては、「読むこと」の領域に関して、次のようなポイントで取り組む必要がある。まず、文学的文章においては、「文章の展開に即して場面の状況をとらえたり、登場人物の描写に注意しながら読むこと」、「情景描写等の効果や、登場人物の言動の意味を考えながら読むこと」をとおして内容を理解することが肝要である。また、説明的文章においては、「文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見等を読み分けること」、「目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえること」、「文章全体と部分との関係をとらえること」をとおして、内容の理解を深める必要がある。さらに、この2つの文種においては、「文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解するために辞書を活用するとともに、文の前後の関係から語句の意味を推察させること」も確かな国語の力を付けるために必要な指導の1つとして挙げられる。

また、「言語事項」においては、「文脈の中で漢字や語句を正しく使うこと」が大切である。さらに、「抽象的な概念の語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句等について理解すること」をとおして語感を磨き語彙を豊かにすることも、継続的に指導していかねばいけないポイントである。

評価の観点別に見た課題は、国語科の場合上記の「内容・領域別」と重複する。

よって、今後の学習において指導の充実を図るための具体的な手立てに関して付け加えながら、以下「読む能力の指導の充実について」まとめておく。

(ア) 文学的文章の指導の充実について

- a 文章の展開に即して、場面の状況をしっかり読み取ること。
- b 登場人物の心情等に注意しながら読み進めること。
- c 情景描写等の効果に着目し、登場人物の言動の意味を考えながら読み進めること。

(イ) 説明的文章の指導の充実について

- a 段落の果たす役割や段落内の各文の接続関係を考えながら読むこと。
- b 中心的部分と付加的部分、事実と意見等を読み分けること。
- c 目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。
- d 文章の構成や展開の仕方をとらえ、自分の表現に役立てること。

(ウ) 文学的文章と説明的文章における「読むこと」共通指導事項の充実について

- a 辞書等を活用し、文脈における語句の意味を正確にとらえること。
- b 文章の構成や展開、表現の特徴等について根拠を明らかにしながら、「自分の考えをもつ」こと。

また、「言語に関する知識・理解・技能」の指導に関しては引き続き指導が必要なので、「読む能力の指導の充実について」同様、以下にまとめておく。

(ア) 「言語事項」の指導の充実について

- a 新出漢字だけでなく既習の漢字についても、適宜定着度の確認をすることにより計

画的に繰り返し指導をすること。

- b 言葉のきまりに関することや、慣用句、熟語や熟字訓等を取り立て指導する場合には、辞典を使いながら、系統的に指導すること。
- c bにかかわっては、取り立て指導にとどまらず、各領域の中で繰り返し指導したり、表現活動の中で活用させる等、意図的に指導すること。

「話す能力・聞く能力」の育成に関しては、1年生では「日常生活の中から」、また2年生以後は「社会生活の中から」テーマを選材して指導を行うことが大切である。特に「聞き手」に要求されることとして、「話の全体像をつかむこと」「話し手の意図を考えながら聞くこと」の2つが挙げられる。「聞くこと」は一過性のものであるため、メモを活用する指導が重要となる。日頃の授業においては、具体的な言語活動を通して「話すこと・聞くこと」を指導していくことが大切である。例えば、今回の聞き取りの検査のような問題においては、司会者が最初に提示する話題をきちんとメモすることが大事である。これから話される内容が、どんなものであるのかを把握するため、また、話が終わったときに今の意見交換のテーマは何だったのかを振り返るために必要不可欠な要素である。当然意見交換の中で登場する生徒たちも、その話題に沿って話すのであるが、その際のメモも、テーマに関わる表現を単語や短文によってメモすることで、それぞれの主張の特徴を正確にとらえさせたい。

最後に「書く能力」であるが、できるだけ「書く」活動を位置付け、書き慣れさせることが大切である。その際には、実生活や経験したこと等と照らし合わせて、自分の考えを述べさせるようにしたい。また、作品の発表や掲示等を工夫し、相手意識や目的意識を持たせることで、「書くこと」への意欲を高めたい。さらに、1行作文や5行作文といった短作文を取り入れたら、ノートやワークシートの工夫をしたりして、個に応じた指導の充実を図りたい。

国語科としての指導上の留意点であるが、「何について」「どのように答えるのか」といった、出題のねらいや意図を理解させてから、考えたり答えたりする指導をすることが大切である。また、字数や使用語、さらには文末等の条件に着目させるなどし、多様な問題の形式にさせ、段階的に指導していくことも肝要である。

今回は、5の作文で非連続型テキストを読む問題であった。結果は73.4%の正答率であり、おおむね良好であった。今後も、複数の資料を比べて見いだした共通点や相違点、変化を、目的に応じて活用したりするような学習活動に積極的に取り組ませる必要がある。また、連続型や非連続型テキストの両方から情報を読み取ったり、様々な条件での書く活動を、意図的に数多く経験させることも肝要である。さらに、「思考力」を育成するために、自らの体験と結び付けて読ませたり、読み比べて考えさせること、教材を分析的・批判的に読ませたりすること、根拠を明確にして話し合う活動を多くしていくことも大切である。

設定通過率と通過率との比較からみた課題としては、「読むこと」「話すこと・聞くこと」「言語事項」の充実が挙げられる。特に今回は「基本的な古語の意味を書くこと」「文章展開に即して語句の意味を理解すること」や「文の構造をとらえたうえで主語を探すこと」といった問題の通過率が低かった。

今後の指導においては、基礎的・基本的な事項をきちんと習得させる指導が肝要である。

キ まとめ

「書く能力」については、4年連続で設定通過率を上回っており、県として能力の向上の跡が見られる。

最後に、学習指導要領改訂の方向性を視野に入れながら、次の3点に留意して指導にあたりたい。

- (ア) 育成を目指す言語能力を明確にして指導すること。
- (イ) 言語活動例の具体化を図り、計画的に指導すること。
- (ウ) 生徒の主体的な学習と「伝え合い」を重視して指導すること。